

第3回グリーンシート銘柄制度の検討に係る懇談会 プレゼンテーション資料

2011年12月22日

一般社団法人 日本ベンチャーキャピタル協会





【一般社団法人 日本ベンチャーキャピタル協会(JVCA)概要】(Ⅰ)

■名称：一般社団法人日本ベンチャーキャピタル協会

■英文名：Japan Venture Capital Association(略称：JVCA)

■代表理事：安達 俊久

■設立：2002年11月28日

■所在地：〒169-0074 東京都新宿区北新宿2-21-1 新宿フロントタワー4階

■会員数：VC会員 52社、賛助会員 70社(名) 計 122社(名)(2011年11月末現在)

■役員：会長 安達 俊久(伊藤忠テクノロジーベンチャーズ株式会社 代表取締役社長)

副会長 呉 雅俊(株式会社TNPパートナーズ 代表取締役社長)

副会長 尾崎 一法(アント・キャピタル・パートナーズ株式会社 代表取締役会長兼社長)

専務理事 市川 隆治(財団法人ベンチャーエンタープライズセンター理事長)

常務理事 橋本 宏(三菱UFJキャピタル株式会社 代表取締役社長)

理事会社(五十音順) アントレピア株式会社、エス・アイ・ピー株式会社、静岡キャピタル株式会社、

大和企業投資株式会社、ネオステラ・キャピタル株式会社、

三井物産グローバル投資株式会社、安田企業投資株式会社

監事会社(五十音順) ウエルインベストメント株式会社、エンゼルキャピタル株式会社



【一般社団法人 日本ベンチャーキャピタル協会(JVCA)概要】(Ⅱ)

■目的：当協会は、将来性のある未公開企業の企業・成長・発展を支援するために当資等の形で資金提供、経営支援等を行なうベンチャーキャピタルを中心とした組織です。ベンチャーキャピタル事業の質的向上を目指し、研究活動を積極的に行って、業界全体の健全な発展、ひいてはわが国経済の発展に資することを掲げています。

■事業内容：

- ① ベンチャーキャピタル業界の活動全般に関する調査・研究・検討
- ② ベンチャーキャピタル業界の地位向上のための諸活動(広報・宣伝・出版等)の実施
- ③ ベンチャーキャピタルに関する講演会・シンポジウムその他の実施
- ④ ベンチャー企業等に対する専門的支援機関・団体との連携
- ⑤ 大学・研究機関・中央省庁・自治体等との連携
- ⑥ 日本証券業協会、証券取引所等の株式市場関係機関との連携
- ⑦ 諸外国・地域のベンチャーキャピタル業界団体・組織との連携
- ⑧ 諸官庁に対する政策提言、法律改正等の要請
- ⑨ 会員およびその職員の質的向上に向けての講習会・研究会等の実施
- ⑩ 当協会独自の「資格試験」の実施、「資格」の授与
- ⑪ 前各号に掲げる事業に付帯または関連する事業



【一般社団法人 日本ベンチャーキャピタル協会(JVCA)概要】(Ⅲ)

■最近の活動実績

① 信頼関係再構築

- － 起業家
- － 機関投資家

② グローバル活動

- － アジアVCフォーラム推進
- － Global VC Congress参加
- － 日米イノベーション対話

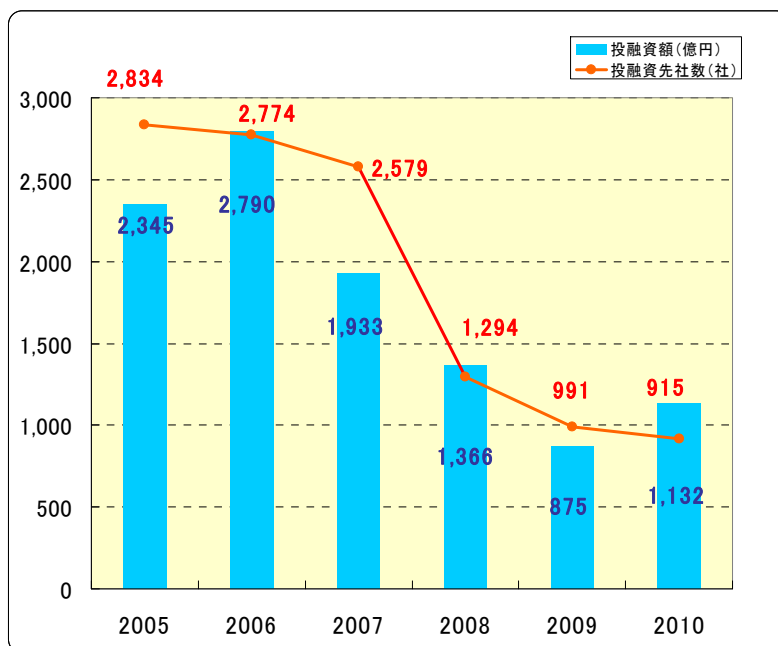
③ CVC(事業会社VC)

- － 協業推進

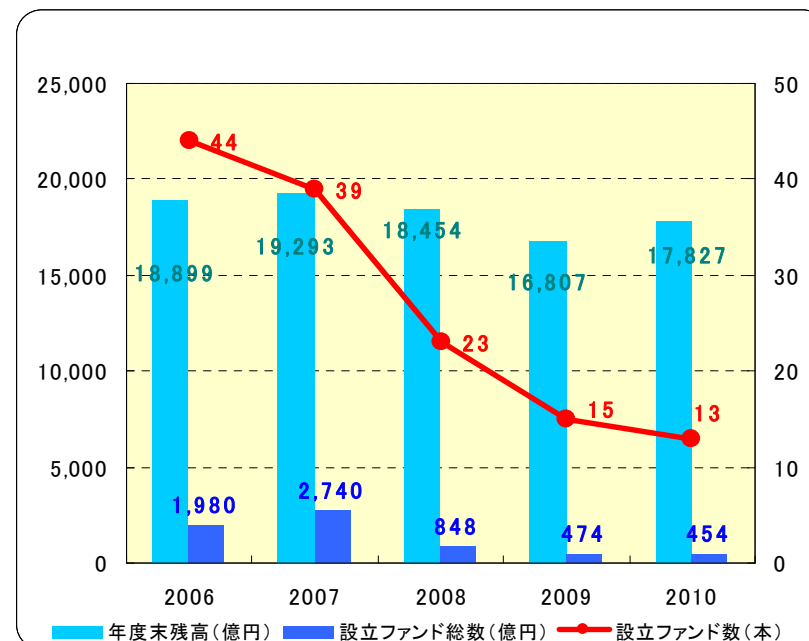
【VC業界動向】(Ⅰ)

■参考資料

図表 1 年間投融資額の推移



図表 2 ファンド総額、ファンド 組成数・
ファンド組成金額の推移



※資料：財団法人ベンチャーエンタープライズセンター(VEC)
2011年11月15日付速報値



【VC業界動向】(Ⅱ)

VC業界は九重苦 ～ 一条の光が射す ～

市場規模はピーク時(2007年)の1/3、2011年から緩やかな上昇軌道へ

- ① リスクマネーの枯渇(機関投資家、公的年金、企業年金)
- ② いまだに低い有能な人材の流動性
- ③ 新興市場の不振(IPO社数はピーク時の1/10)
- ④ ベンチャーと取引しない大企業(前例主義、実績主義)
- ⑤ 圧倒的に少ないエンジェル(個人投資家・メンター)
- ⑥ ファンド規制強化(米国ではVCFは金融改革法から除外)
- ⑦ 大企業の自前主義(vs オープン・イノベーション)
- ⑧ 会社法見直し(M&Aへの萎縮効果)
- ⑨ 未熟な資本市場(直接金融 vs 間接金融)



【VC業界動向】(Ⅲ)

新たな動き

- ① 小額資本による起業家輩出
(インキュベーション・ファンド隆盛/低コストでの起業環境)
- ② CVCとの協業活性化(NIH主義の終焉、M&A)
- ③ ベンチャー業界のグローバル化(資金調達、新興国の取り込み)
- ④ ベンチャー起業家の海外雄飛



【VC出資のKSFと社会的意義】(Ⅰ)

KSF(Key Success Factors)

- ① 経営者(リーダーシップ、相手の話を聴く力)
- ② 市場成長性(仮説と検証の繰り返し)
- ③ 変化対応力(グローバル対応)
- ④ 社会性(コンプライアンス)
- ⑤ 技術力(差別化要素)

■参考：雇用創出力推移 ※資料：ACCJ

- ・ 1996年以前設立企業
 - 310万人雇用喪失
- ・ 1996年～2006年新規参入企業
 - 過去5年間で121万人雇用創出



【VC出資のKSFと社会的意義】(Ⅱ)

～ 良質なリスクマネーで雇用力と担税力を生み出す高付加価値
サービス業とコア・テクノロジー企業群の創出を ～

- ① グリーンテクノロジー（環境・エネルギー／新素材）
- ② ライフサイエンス（バイオ／ヘルスケア）
- ③ 第一次産業のIT活用による再生（農業／水産業／林業）
- ④ 自動車産業の次を担う製造業



【グリーンシート銘柄制度の問題点と思われる点】

～ 機能面での課題、必要性など ～

I. 各市場の役割・機能の再確認

- ① 本則市場 → 安定成長企業
- ② 新興市場 → 高成長企業

II. 新興市場の意義

- ① ハイリスク・ハイリターン
- ② グリーンシート銘柄制度の機能・役割

III. 証券会社

- ① グリーンシートの魅力
- ② 規制緩和 → 中小証券、投資家
- ③ スモールキャップ市場新興のための強力なインセンティブ
→ 発行会社、投資家